



羽咋高校 同窓会だより

Vol.
36
5月
2019

羽
高
の
歴
史
は、
校
歌
と
と
も
に



▶ contents

母校へプロジェクター寄贈.....	2
200人が同窓会新加入	2
大学合格状況.....	3
校友広場.....	4
創立100周年にアイデア募集	5
8月4日に本部総会	5
御礼！協力金のご芳志.....	6
羽高魂！スポーツと文化活動の軌跡.....	8
羽咋高校の校歌制定.....	8



■昭和26年・校歌制定【写真上：國學院大学折口古代研究所提供】
10月22日。弟子たちと羽咋高校を訪れた折口は、自ら作詞した校歌を初めて聴いた。写真は、その際、校舎中庭で撮られた貴重な一枚。左から、藤井翼（春洋の実兄、医師）岡野弘彦（折口と同居する門弟、のちに國學院大教授）折口信夫（当時64歳）伊馬春部（折口の教え子、脚本家、作家）船本道弘（教員）寺西七郎校長 池田弥三郎（折口の教え子、のちに慶応大教授） ※文中：敬称略

■昭和54年・校歌歌碑建立【写真：下】

石川県立羽咋高等学校 ●学校創立 昭和23年（1948）4月1日 ●創立記念日 6月17日（昭和23年に開校式が行われた日）

●卒業生数 旧制羽咋中学校 1,996名 旧制羽咋女学校 1,943名 新制石川県立咋高等学校 24,840名（平成31年3月現在）

●在籍生徒数 600名（平成30年度）

●ホームページ <https://www.uko-dosokai.net/> E-mail info@uko-dosokai.net

みなさまの思いを 感じながらの2年

同窓会会長 轟 千栄子

昨年、初めて同窓生のみなさま全員に「同窓会だより」をお届けし、あわせて運営協力金のお願いをさせていただきました。この1年、様々な機会に「見ましたよ、私も羽咋高校です。」とお声をかけていただき、うれしい驚きの連続でした。また、「協力金、送りましたよ。」と笑顔でご挨拶くださる皆様にも心からの感謝でいっぱいです。

今年も1万人を超える同窓生のみなさまに「同窓会だより」をお届けすることができました。皆様から寄せられた運営協力金のおかげです。また、運営協力金で昨年は母校にプロジェクトを5台寄贈することができました。予約しないと使えなかったプロジェクトがいつでも安心して使えるということ、先生方の授業の組み立てもしやすくなり、より質の高い授業へつながっているようです。職員会議で寄贈の話が出たときには先生方から歓声が上がったと聞いています。プロジェクトを使った授業の様子は羽咋高校同窓会のホームページからご覧いただけます。ホームページも昨年秋にリニューアルし、更新させていただきますので「同窓会だより」とあわせてご覧ください。

今年も3月1日200名の卒業生が羽咋高校を巣立ち、新しい同窓会の仲間となりました。卒業式にも招かれご家族・先生方と共に拍手で退場する彼らの背中を見守ることができました。その中のひとりが花粉症で受診し、国立大学合格の報告してくれました。そして「住所が決まったらあのはがきを出しま



す。」とにつこり。学年集会で3年生に同窓会の話をしたときに新しい住所を同窓会事務局に知らせてくださいと報告用のはがきをお渡ししてあったのです。主治医としても同窓会長としても最高にうれしい瞬間でした。

そして4月8日、200名の新入生を迎えました。大きく改訂された高等学校の学習指導要領のもと教育・指導に先生方も全力で臨まれているところです。私が学んだ地元の伝統ある進学校として揺るぎない時代とは状況も変化しています。母校への関心を新たにしたい同窓会としての役割を熟慮していくことが求められていると感じています。

2022年、羽咋高等学校は創立100周年を迎えます。100周年記念事業準備委員会も高校に設置され同窓会としてしっかりと協働していきたいと考えています。今まで支部がなかった中能登・七尾地区での支部設立の準備も進んでおり、7月の本部総会で承認をいただいた後11月には設立総会の予定と聞いております。これからのいろいろな情報を発信してまいりますので、同窓会活動に関心をお寄せいただき、同窓会本部までみなさまのご意見をお届けください。皆様のお力添えを心からお願ひいたします。

母校へプロジェクター寄贈

近年、教育現場にもコンピュータやインターネット技術の導入が急務とされています。

母校においても画像や映像をスクリーンに投影することができる「学校向けのプロジェクター」が不足していたことから、昨年11月に「プロジェクター」5台を寄贈。これにより、全クラスの普通教室で日常的に効果的な授業が可能となりました。



200名が新加入同窓会入会式

2月8日。200人の3年生最後の学年集会で時間をいただき同窓会長としてお話しをさせていただきました。

各支部の紹介や連絡先の届け出のお願いなどを直接伝えることができうれしい時間でした。受験に向けて大切な時期、校医として手洗いやマスクの着用方法なども思わず説明してしまいましたが、みなさんの健闘と新しい仲間の誕生に思いを馳せた時間でした。(轟千栄子)



羽咋高校のこれから

校長 釜親 徹

羽咋高校同窓生の皆様には、日頃より本校教育活動に對しまして、物心両面に渡り熱い応援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年度は同窓会より、授業用プロジェクト5台を寄付していただきました。既にあつたものと合わせて各教室に常設できるようになり、休み時間中の機器の移動がなくなった分、教員にゆとりが生まれ、活気のある授業が展開できるようにになりました。本当にありがとうございます。この場をお借りして、お礼申し上げます。

生徒たちは先輩方の応援に応えるべく、本校の教育目標の第一である「文武両道」を実践するために、日々努力を続けています。学校生活では教科の学習だけではなく、学校行事や生徒会活動にも、生徒たちは主体的に、一生懸命に取り組んでくれました。昨年度はマラソン大会が第70回を迎え、全校生徒が10月のさわやかな風に吹かれながら千里浜を走りました。また、4月には体育祭を、8月末には保護者と地域の方々と共に羽高祭を行うことができました。

部活動においては、生徒数減で部員が集まらない学校もある中、本校ではどの部も頑張つて活動していると思います。6月の県高校総体では、剣道男子、弓道女子、なぎなた女子が団体戦で準優勝となり、惜しくも全国大会の出場は逃しましたが、個人では、陸上やり投げ競技、剣道女子、少林寺拳法、加えて将棋でも全国大会に出場することができました。さらには、9月の福井国体では、陸上



やり投げ競技で3位、本校生徒3人が主軸となつて戦つた剣道女子団体で5位の優秀な成績を残すことができました。

一方、3年間の学習の成果を問われる大学入試においては、難関大学と言われる北海道大学、東北大学、名古屋大学に計4名が、金沢大学に14名が、その他合わせて国公立大学に96名が合格しました。有名私大の合格者数抑制などにより、金沢大学など主要地方国公立大学の難化傾向がありますが、昨年を上回る成績を残せたことは、センター試験から後期日程試験までの約2か月間を、生徒も先生も粘り強く頑張つたからだと思えます。

少子化により、次年度以降、中学3年生の数は激減しますが、こういつた中にあつても、羽咋高校は文武両道の実践、手厚い学習指導や進路指導は守つていきたいと思えます。ただ、次に大きな教育改革も控えています。守るだけではなく、指導の中に新しい手法も取り入れていきたいと思えます。また、来年度より、「探究未来塾」として、1、2年生で課題研究に取り組み、変化していく社会で活躍していく為に、どんな時も汎用的に役立つ能力・態度を養つていきます。どうぞ、今後とも、本校の発展にご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■平成31年度教職員人事異動 (平成31年3月23日現在)

転出	転出先
教 頭	江上 雅宏 金沢桜丘高校 副校長
国 語	小笠原彩子 七尾高校
数 学	井上 政人 七尾城北高校 教頭
英 語	亀井 稔 石川県教育委員会
家 庭	山本 信子 羽松高校
事務長	大谷 孝和 中能登総合事務所
主 幹	疋島 裕信 七尾城北高校 事務長

退 任	
臨任講師	上野 露夢
臨任講師	筒井 広太
臨任講師	青木 佳奈
非常勤講師	国門 源量
非常勤講師	上中 若菜

退 職	
地歴公民	西田 邦浩
英 語	井上 吉衛
同 窓 会	疋島 和子

転 入	
教 頭	北島 雅恵 金沢泉丘高校
地歴公民	北村 正昭 金沢桜丘高校
数 学	南 孝治 金沢西高校
理 科	前田 耕志 翠星高校
英 語	至極 功 羽咋工業高校
英 語	眞保 貴彦 金沢向陽高校
家 庭	川田 希望 新採
事務長	柳澤 博之 七尾港湾事務所
主 幹	山崎 朋恵 志賀高校
臨任講師	高 由美
代替養護助教諭	久保 茉莉
非常勤講師	佐藤 篤志
非常勤講師	井上 吉衛
同 窓 会	南 典子

■大学等合格状況 (平成31年3月23日現在)

北海道大学	1	石川県立大学	3
東北大学	1	福井県立大学	4
山形大学	1	都留文科大学	1
福島大学	1	福知山公立大学	2
群馬大学	1	島根県立大学	1
上越教育大学	3	尾道市立大学	1
新潟大学	8	国立大学計	96
長岡科学技術大学	2		
富山大学	6	杏林大学医学科	1
金沢大学	14	岩手医科大学医学科	1
福井大学	3	帝京大学医学科	1
静岡大学	3	京都産業大学	20
名古屋大学	2	立命館大学	18
大阪教育大学	1	龍谷大学	4
鳥取大学	2	関西大学	3
島根大学	1	近畿大学	5
山口大学	1	同志社大学	5
長崎大学	1	その他の私立大学	233
琉球大学	1	私立大学合計	291
秋田県立大学	3		
首都大学東京	1	短期大学合計	10
高崎経済大学	2	専修学校計	46
富山県立大学	7	職業能力開発大学校	3
公立小松大学	13	総計	446
石川県立看護大学	5	卒業生数	200

あの人は今どうしてか…?

東海支部

平成8年(1196)2月24日、第1回東海支部設立と同窓会が、同窓会本部並びに会員よりの強い要望の元開催されました。初代支部長に畠山 胖(高4回)さんが選出され、上井和彦(高6回)さん、そして佐藤武司(高12回)と受け継がれて、発足から二十数年、現在は木村 勉(高19回)さん指導の下、本年で第18回目の総会を10月26日(土)、名古屋市千種区のホテル・ルブラ王山にて開催するはこびとなりました。

発足当時は、500人余の人が該当地区に居住(愛知、岐阜、三重、長野県・静岡県の一部)していましたが、現在は390人程度までに減少、時代の流れとも言うべく、会員も高齢化してしまい、老々介護や体力の限界との事で総会への出席者数も徐々に減少傾向となっています。

また、発足当時の総会は隔年開催でしたが、会員の参加者増をと目指して、第7回総会より毎年開催にとしたのですが悲しくも増員する事は果たせず、現状は存続の危機に…「あの人は今どうしてか…?」同窓会と言う機会に今一度、足を運び故郷能登の、羽咋弁の飛び合う、情報交換のひと時を過ごしたいと節に希望するものです。(髭右近 徹:高14回卒 記)



羽高魂ここにあり

昭和35年卒同期会

秋の叙勲で中村重幸(元羽咋市議会議長・旭日小綬章)さんが地方自治の発展。久保順一(八幡グループ代表・旭日双光章)さんが商工会をはじめ中小企業振興の功績で受章され、2月24日、二人の祝賀会を休暇村・能登千里浜で行いました。

祝賀会には地元の同級生40人、山辺芳宣羽咋市長(高11回)、轟千栄子羽咋高校同窓会会長さんも駆けつけてくださり、さながらミニ同窓会の雰囲気でした。斉藤真一郎君が開幕を告げる「祝言」を吟じられ厳かな雰囲気で開催。発起人を代表して富山一夫君が挨拶し、山辺市長さん、轟同窓会会長さんの祝辞に続き、二人に花束が贈られ、立浦凱一君が「受章の喜びを分かち合い、強い絆で結ばれた12回生はこれからも頑張りましょう」と乾杯の発声。

二人からは「同級生の仲間から励まされ、助けられたことが受章に繋がった」とお礼の言葉がありました。

参加者からは祝いの言葉、歌などが和やかな雰囲気の中で進められ昭和、平成と頑張ってきた12回生は「羽校健児の魂、ここにあり」と確認し「明日もがんばろう!」と約束し閉会となりました。(中條俊夫:高12回卒 記)



設立60周年記念総会

関東同窓会

関東同窓会が発立された時期については、昭和24年に羽咋中学校、羽咋高等女学校を卒業された方々が集まり、すでに親睦の目的で「東京会」が発足していたという記録があります。

昭和34年に同窓会本部に認められ、室野暁二氏(中1)を支部長に「関東同窓会支部」として設立しました。平成17年に、「関東支部」から「関東同窓会」と名称を変更しています。平成17年「個人情報の保護に関する法律」が実施され、会員の皆様との親睦と交流を図ることを目的に発行していた名簿の作成が困難となり、それに代わるものとして、平成18年から関東同窓会の会報「絆」を発行しています。今年で14号になります。(6月発行)

また、毎年11月に会員相互の親睦と会員の皆様が健康で楽しい生活を送っていただきたいと願い、『総会・講演会・懇親会』を行っています。懇親会では、毎年100名程の会員が集い、郷里の物産を中心に参加者全員に当たる大抽選会を行うなど、楽しく交流を図っています。また、毎年9月の第一週の土曜日または日曜日には、『相談役・顧問、卒年次世話役、学生と現役員との懇談会』を計画しています。

今年は設立60周年を迎えます。これを機として、その「歴史と未来(ビジョン)」を語り、考え、提案します。

同窓の皆“集れ”(赤池典充:高27回卒 記)

関東同窓会設立60周年記念総会・講演会・懇親会

日時:11月9日(土) 11時15分～

会場:東海大学校友会館(霞が関ビル35F)

連絡先 事務局長・赤池典充 ntsk-aka@docomonet.jp

関西支部は60周年を迎えます

関西支部

昭和35年2月14日大阪難波の北極星産業(株)において発会してから60周年を迎えます。この間多くの先輩の方々のご尽力より継承され、今この時を迎えることは誠に感慨深く責任の重さを感じます。これもひとえに本部をはじめ各支部の皆さん方からの温かいご指導ご鞭撻を賜物と深く感謝申し上げます。また、多くの方々から物心両面に亘りご支援をいただいておりますことは誠に有難く厚くお礼申し上げます。

今社会は、AIやスマホ等の登場により人を介さず事が済む時代が変わろうとしており、人と人の交わりが極めて希薄な社会になりつつあります。こんな時代だからこそ、人・社会とのかかわりを大切にしたいものです。

関西支部は、10月19日(土)に大阪天満のキャッスルホテルにおいて創設60周年記念総会を開催します。人はふるさとを離れても、折りに触れ友やふるさとを懐かしく思うものです。同窓会は年に一度の交流の場ではありますが、母校やふるさとの現状に耳を傾けながら互いに昔を今を明日を語り合うところに言葉に尽くせぬ意義があると思います。

会員各位をはじめ関係各位におかれましては、知人・友人をお誘いの上多くご参加くださいますようお願い申し上げます。



そしてあの格調高い校歌「砂丘に…」を声高らかに唱和しましょう!!

(関西支部支部長 橋本孝司:高7回卒 記)

2022年 学校創立100周年！ 皆さまからの記念事業のアイデアをお寄せください

石川県立羽咋高等学校は、2022年に創立100周年という節目の年を迎えます。この3月、100周年事業実行委員会も立ち上がりました。私たち同窓会としても、記念講演会や式典、記念行事、記念誌発行など、この記念すべき年に向かってお祝いの心を事業として企画立案し、100周年を盛り上げたいと思います。そこで、この事業の内容について、一般の会員の皆様からも広くご提案を頂きたいと存じます。たくさんのアイデアをお寄せくださいますようお願い申し上げます。

■募集内容

創立100周年記念事業として取り組む事業を募集します。事業内容の観点は主に次のとおりです。

- 100年の歴史を象徴するもの
- 母校の教育の充実に資するもの
- 旧制羽咋中学校以来の良き伝統の未来への継承となるもの
- 同窓会会員相互の親睦を図るもの

■提案様式

様式は自由とします。ただし、次の項目は必ず含んでください。

- 事業の必要性と事業を行うことによる効果
- 事業内容
- 経費概算（可能な場合）

■募集期間

2019年5月1日～12月24日

■提出先

〒925-8550
石川県羽咋市柳橋町柳橋1番地
石川県立羽咋高等学校内
100周年記念事業事務局
【問い合わせ】
☎0767-22-1422
(同窓会事務局)
E-mail info@uko-dosokai.net



創立90周年事業で修復された杜の鐘

8月4日に本部総会 名大・山本教授が記念講演

日時 2019年8月4日（日）

受付10：00～

会場 能登ロイヤルホテル/ロイヤルホール（志賀町矢蔵谷ラ-1）

☎0767-32-3111

総会 10：30～11：30

議題：決算報告、予算・事業計画ほか

記念講演会 11：40～12：40

講師：名古屋大学大学院教授
山本直人氏（高28回卒）

演題：「吉崎・次場遺跡と羽咋の黎明」

概要：我が母校にはかつて「地歴班」があり、精力的な活動を行っていました。昭和27年、工事中に見つかった大量の土器をきっかけに分布調査を行い、国史跡 吉崎・次場遺跡の存在を知らしめたことは輝かしい功績の一つです。講演では、考古学者で名古屋大学教授の山本先生から北陸最古の弥生集落である同遺跡の研究成果を通して羽咋の始まりを語っていただきます。



弥生公園として整備された吉崎・次場遺跡

懇親会 12：50～14：50

会費：5,000円（当日、会場にていただきます）

アクセス：羽咋駅から能登ロイヤルホテルまで無料送迎バスを準備します。（9：20発、定員50名）

申込み 総会、懇親会に出席いただける方は事務局までお名前、ご連絡先をお知らせください。準備の都合上、7月25日までにお申し込みください。バスご利用の方もあわせてお知らせください。

事務局：☎0767-22-1422

E-mail info@uko-dosokai.net

講師：山本直人氏プロフィール

やまもと・なおと/1957年生まれ。

広島大学文学部卒。名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了後、石川県立埋蔵文化財センター、名古屋大学文学部助教授などを経て、2003（平成15）年に名古屋大学大学院文学研究科教授。専門は考古学。現在は縄文時代の地域社会像の復元に取り組んでいる。

著書（単著）『縄文時代の植物採集活動』（2002年、溪水社）『文理融合の考古学』（2007年、高志書院）『縄文時代の生業と社会』（2013年、同成社）



今後の行事予定

（3月25日現在）

- 期別幹事会
5月12日（日） 母校1階会議室
- 本部役員会
7月9日（火） 母校・和室
- 志賀羽松会
7月15日（祝） いこいの村能登半島
- 本部総会
8月4日（日） 能登ロイヤルホテル
- 羽松会富来総会 8月予定
- 河北支部同窓会総会 未定
- 石川県庁同窓会総会 未定
- 関西支部同窓会設立60周年記念総会
10月19日（土） キャッスルホテル
- 東海支部同窓会
10月26日（土） ホテルルブラ王山
- 関東同窓会設立60周年記念総会
11月9日（土）
霞が関ビル35F 東海大学校友会館
- 金沢支部同窓会 未定

事務局職員に南さん

長きにわたって同窓会本部のお世話をしていただいた正島和子さん（高14回）が3月末で退職し、新たに南典子さん（高27回）が4月1日付で就任しました。

北野みや子さん（高20回）の詠んだ短歌が「朝日歌壇」に入選・掲載されました。それも二人の選者から同時に第一首に選ばれたもの。この快挙は各地の同窓生に伝わりました。今号では母校の校歌を取り上げたこともあり、北野さんの了解を得て掲載しました。

潮騒のとどろきに気多に漲れば

折口父子の叫びとぞ聞く

◇馬場あき子評（原文ママ）

第一首は折口信夫・春洋父子の墓がある石川県羽咋市の人の歌。気多の地に冬の日本海が轟く。折口が言い残した思いのように。

◇高野公彦評（原文ママ）

第一首、折口信夫は戦死した養子・春洋の墓を羽咋市の気多の浜辺に建て、没後自分もその墓に入った。潮騒の響きは戦争を憎む父子の叫びの如く浜辺に広がる。



折口父子墓

Table of sports results including categories like 柔道部, 陸上競技部, 卓球部, 剣道部, 弓道部, etc., with names and rankings.

Table of cultural activities results including categories like 演劇部, 吹奏楽部, 英語部, 将棋部, etc., with names and achievements.

羽咋高校の校歌制定

昭和23年の学制改革で、旧制羽咋中・羽咋高女は新制高等学校に生まれ変わった。新しい学校には新しい校歌が求められる。旧中・高女ともに金沢四高教授・鴻巣盛広先生の作詞であつたが、さて新しい校歌は誰に頼むべきか？

そこで候補に挙がったのが、国文学者で歌人でもある折口信夫先生だつた。先生は、国学院大学と慶応大学で教鞭を執る文学博士で、民俗学の先駆者としても有名な方。しかも養子に迎えた藤井春洋が羽咋市寺家町の出身だつたことから、昭和初年から幾度も羽咋を訪れていて、昭和23年当時は、硫黄島の戦いで亡くなった春洋のため、羽咋に墓を建てようとして準備されていた時だつた。

昭和24年7月、墓の落成と羽咋高校での国語研究会講演のため、折口先生が羽咋にやってきました。この時とばかりに寺西七郎校長が折口先生に校歌作詞の依頼をしたところ、ゆかりのある羽咋のためならと即ち快諾された。この当時、折口先生には多くの学校から校歌作詞の依頼があつた。石川県内では昭和23年金沢女子専門学園（当時、現金沢学院短大）、24年金沢二水高校、26年大聖寺高校と続くが、折口先生の晩年5年余りの間に、全国24校から依頼があつたとされる。他校に比べ羽咋高校の校歌は特別だと自慢するのは可笑しいだろうか。歌詞の長さ、格調高い措辞、朝昼晩の構成、古さと新しさの対比等々、よく味わっていただきたい。



校舎前庭にある杜の鐘

（藤田豊郁：高一十八回卒）